

# 『人間生活学研究』 投稿論文の査読の手引き（査読論文用）

『人間生活学研究』編集委員会

2016年3月

査読は、投稿された論文を学会誌に掲載するかどうかを判断する重要な作業です。査読者の方々にはご多忙の中、大変な労力をおかけすることになりますが、学会誌の発展のためによりしくお願い申し上げます。

査読とは、査読者が、客観的に、その論文を読み、論理的矛盾はないか、剽窃はないか等を審査する作業だと考えております。査読者が自分自身の学問的立場に立脚して、論文の良否を判断するものとは考えておりません。

この点に十分ご留意の上、迅速な査読にご協力いただけるようお願い申し上げます。

より具体的な査読方針は次の通りです。

(1) 最終的な採否の判断は、編集委員会でおこないますので、著者宛のコメント欄には採否に関するコメントは記載しないようにお願いします。

(2) 論文における明らかな誤りや不足部分に関してご審査下さい。

誤った記載や実験の説明不足、考察の不足などは指摘の対象になりますが、研究テーマそのものの良否・価値判断にまで踏み込んだ議論は査読の範囲を超えるものと考えます。

(3) 論文の論理的構成を重視してご審査下さい。

十分論理的に書かれているかが査読の視点のひとつとなります。論理に飛躍がある場合は、ご指摘ください。

(4) 著者の主張が査読者の見解と対立する場合であっても、著者の主張が著者自身の論拠（データなど）から論理的に導き出されている場合には、採択基準をみたしているとは判断ください。

(5) その研究の当該分野における位置づけがなされているかについてご審査下さい。

既に公刊されている研究を知らずに投稿されている場合には、具体的に論文名をあげて著者に知らせるようお願いいたします。

(6) 研究論文を積極的に評価する姿勢でご審査下さい。

既存の学会では掲載されることが難しいような論文でも、本学会の目的にかなうものであるならば、その価値を積極的に評価し、改善点をご指示くださるようお願いいたします。

(7) ①論文の論旨に影響する主要な修正意見、②形式上の間違いや字句の修正点、③参

考意見や今後のための提言等の項目を明記してご指示ください

(8) 査読者は、投稿論文に対する審査結果を、原則として、採択・条件付き採択・再審査・不採択の4段階で示すことになります。

それぞれの判断は以下の通りです。

(a) 「採択」

小規模の修正を除きそのまま掲載してよいと判断されるものとします。ここでいう「小規模の修正」とは、原則として編集事務局で実務の範囲で対応できると判断できる修正を意味します。

(b) 「条件付き採択」

形式上ないし実質上の修正を必要とするが、掲載に値することは明らかと認められるものとします。

(c) 「再審査」

掲載に値するかどうか、修正の結果によって判断されるものとします。

(d) 「不採択」

本誌の趣旨に合わないものや、修正を行っても掲載に値しないと判断されるものとします。

(9) 査読意見は、1回目の査読でできるだけ全て記載してください。原則2回目以降は、論文の修正に伴う指摘以外は、新たな指摘事項を追加しないようにお願いします。